

【2】 近代以降のヒトの移動（新大陸への移民）

(1) アメリカ合衆国への移民

① 「旧移民」

◎要因

- ・ヨーロッパにおける人口の増加
- ・土地をもたない農民の増大→土地を求めてアメリカに移住

◎特質

- ・アイルランドを除いて、アングロ=サクソン系のプロテスタントが中心
- ・高い技術と文化をもち、アメリカ社会への同化が容易
- ・西部に居住……自営農民として農業生産力拡大に貢献
- ・都市に居住……労働力として工業発展の原動力

◎イギリス系

- ・不況による失業者増大→熟練した工場労働者として移住
- ・19世紀末以降、「新移民」にとってかわられた

◎アイルランド系

- ・1840年代後半のジャガイモ飢饉→100万人以上のアイルランド人が移住
- ・不熟練工業労働者として、不衛生な状態のなかで生活→スラムの最初の住民

◎ドイツ系

- ・ドイツ三月革命（1848）→ウィーンやベルリンでの失敗から自由主義者らが亡命
- ・1830～50年代にかけて鉄鋼、鉄道、銀行、機械製造業の発展
→手工業者の生活貧窮……反乱も多発（ハイネ『シュレジエンの織工たち』）し、
移民増加
- ・多数のドイツ人は、中西部の農業地帯に移住

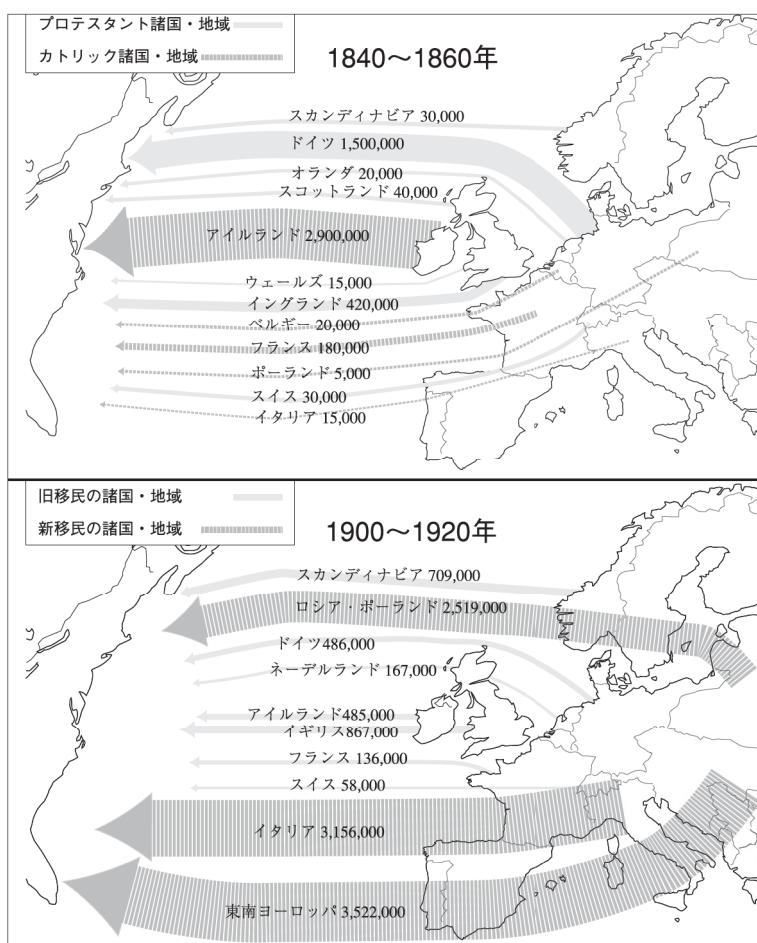
◎北欧系

- ・本国で果せなかった独立自営農民になるために、移住……本格化は、1860年代以降
- ・五大湖地域を中心に、農業に従事

◎「旧移民」

- ・北西ヨーロッパからの移民諸集団
- ・建国から1880年代までの移民の中心

ヨーロッパからの移民の流れの比較
(1840~60年と1900~20年)



☆アメリカ資本主義の発展

- 南北戦争終結を契機に、農業大国と工業大国に発展
- 西部の発展……ホームステッド法（1862）により多くの自作農の育成、移民増加
- 大陸横断鉄道の開通（1869）
- 資本主義の興隆

第5講

② 「新移民」

◎背景

北西ヨーロッパ諸国では、移民の減少……工業化が進んで国内の生活水準の上昇

◎経済的要因

- ・「大不況」(1873) ……失業者の増大
- ・農業不況（19世紀末）

運輸革命を背景に、新大陸などから安い農産物が大量にヨーロッパに流入
→農産物価格の下落

◎政治的要因

- ・反ユダヤ主義の風潮
- ・ドレフュス事件（1894～99）……フランス国内のユダヤ人の移住
- ・アレクサンドル2世暗殺事件（1881）……ロシア帝国内のユダヤ人の移住
事件を機にポグロム（集団的略奪・虐殺・破壊）の頻発
- ・オーストリア＝ハンガリー帝国成立（1867）……ハンガリー支配下のスラヴ人の移住

◎移民諸集団

- ・イタリア人……農業の不作が移住熱の引き金
- ・ユダヤ人……ロシア帝国からの移住が急増

◎特質

- ・ラテン系とスラヴ系が中心で、ユダヤ人も含まれていた
- ・カトリック教徒、一般に貧しい階層の出身者
- ・大半は、ニューヨークとその周辺諸州のスラム地区に住む
→劣悪な労働条件と、ワスプ（WASP）の冷酷な差別や偏見に苦しめられた
- ・アメリカ社会への同化が困難
- ・「新移民」の労働力が、合衆国を世界経済の中心とさせた原動力になった
→世界第一の工業国・農業国

◎「新移民」

- ・南・東ヨーロッパからの移民諸集団
- ・1880年代から1920年代までの移民の中心